

☆ 授業のヒント

スピーチを行うために重要な「談話構成」をどのように把握させるかのヒントを紹介し
ます。

テーマ 談話構成を意識して話そう(1) ~初級編~

目的
<ul style="list-style-type: none"> スピーチの談話構成を知る。 談話構成を意識しながら、話を組み立てることができるようになる。 わかりやすく自然なスピーチができる。
学習者のタイプ
<ul style="list-style-type: none"> 初級
クラスの人数
<ul style="list-style-type: none"> 何人でも
準備するもの
<ul style="list-style-type: none"> テープ、テープレコーダー、ビデオカメラ

本文: アウトラインに沿って、各項目を順番に詳しく話す。
例) まず、~について話します。……
次に、~について話します。……

結論: テーマについて自分の考えや感想を言う。
例) ~はとてもいいところです。

終結部: スピーチが終わることを聞き手に知らせる。
例) これで私のスピーチを終わります。

◆ 談話構成を意識してスピーチを考える

初級レベルの学習者は、使える語彙・表現も文型もまだ限られています。ですから、このレベルでは、身近で具体的な話題について話せるようになることを目標にします。身近な話題であれば、一人で複数の文をつなげてまとまりのある内容を話すことができるようになります。身近な話題の例としては、国の地理や気候、観光地、行事、祭りなどに関することや、自分の学校や仕事に関する内容などが考えられます。

スピーチははじめに何について話すか(テーマの提示)とその話題についてどんなことを話すか(アウトライン)を説明してから具体的なことを話すようにすると、聞いている人にとってわかりやすくなります。

スピーチの全体構成は次のようになります。この全体構成はどのスピーチのテーマにも共通しています。

導入部: スピーチのテーマとアウトラインの紹介
例) 私は~について話したいと思います。まず、~について、次に~について話します。

スピーチをすることになったら、まずスピーチのテーマを考えます。学習者に考えさせてもいいですし、学習者のレベルや関心、学習した項目に合わせてテーマを教師の側から出してもよいでしょう。

次に、アウトラインを考えます。ここでは、「**① 自国紹介**」をテーマにして考えてみましょう。学習者には、自国に関してどんなことを紹介したいかを考えさせます。具体的な項目を学習者がなかなか思いつかない場合には、教師の方から「あなたの国で有名なものは何ですか」とか「何がおいしいですか」などの質問をして、誘導するとよいでしょう。項目が決まったら、各項目について述べることを詳しく考え、メモします。ここでは**自国の① 地理と気候**、それから**② 食べ物**について紹介することになります。以下はそのメモの例です。

- ① **地理と気候**… 4つの島、周りは海、南北に長い、4つの季節がある。
- ② **食べ物**…… 魚をよく食べる、季節によって食べる魚や野菜や果物が違う。春: いちご、夏: すいか、秋: かきやぶどう、冬: りんごやみかん

このメモをもとにスピーチの原稿を書きます。

これから、私の国、日本について紹介します。はじめに、日本の地理と気候について、次に、食べ物について話したいと思います。

まず、日本の地理と気候について話します。日本は4つの島でできている国で、周りは海です。春、夏、秋、冬の4つの季節があります。南北に長いので、北の方では冬に雪がたくさん降りますが、南の方ではぜんぜん降りません。

次に、食べ物について紹介します。周りが海なので、日本人は魚をよく食べます。さしみやすしなどの日本料理が有名です。魚の天ぷらもよく食べます。季節によって、魚の種類が変わります。野菜や果物も同じです。春には、いちご、夏にはすいか、秋にはぶどうやなしなど色々な果物があります。冬にはみかんやりんごを食べます。

日本にはおいしい食べ物がたくさんあるので、みなさんもぜひ遊びにきてください。

これで、私の国の紹介を終わります。

このスピーチでは①地理と気候、②食べ物の二つの項目について話すので、「まず」「次に」のような話の流れを示す言葉を使うとわかりやすくなります。これらの言葉は、談話の構成を聞き手に知らせる働きをすることから「談話標識 (discourse marker)」と呼ばれています。項目が3つ以上になる場合は、一番目の項目は「まず」あるいは「はじめに」、二番目以降の項目は「次に」「それから」「さらに」などの言葉を使い、最後の項目は「最後に」のような言葉を使うよう指導します。

このような標識の使い方は、まず、モデルを聞かせたり、読ませたりして意識させましょう。標識に注目して意識させる方法としては、標識を①太字にして目立たせたり、② () にして何が必要か考えさせたり、③スピーチを聞かせて () の部分を埋めさせるという活動が考えられます。

◆わかりやすく自然なスピーチをする

原稿を書いて作っておくと学習者は安心してスピーチができます。しかし、原稿を準備するだけでは本当のスピーチの力をつけることにはなりません。原稿を作るとそれを暗記して話す人がいますが、書き言葉のように聞

こえたり、聞き手の存在を無視した不自然なスピーチになりがちです。ですから、原稿を読んだり、暗記するのではなく、項目のメモやアウトラインを見て話す練習をしましょう。

また、スピーチの練習を録音して自分の話し方を振り返るのもいいでしょう。速さや声の大きさ、わかりやすさはもちろんのこと、自然な話し言葉に聞こえるにはどうすればよいかを考えてみるといいと思います。

では、自然な話し言葉とはどんなものか考えてみましょう。まず、スピーチの場合、作文と違って目の前には聞き手がいます。そのことを上手に利用して、聞き手を巻き込みましょう。その一つの例としては、スピーチに聞き手に問いかける要素を入れることが挙げられます。左のスピーチ例でいうと、「さしみやすしなどの日本料理が有名です。」の前に「みなさんは、さしみやすしを知っていますか／食べたことがありますか。」と問いかけてみたり、実際の食べ物の写真を見せて「これは何でしょう」とクイズを出してもいいでしょう。

次に、みなさんが母国語でスピーチするときのことを思い出してください。実際のスピーチでは、言いよんだり、言うことを忘れてしまうことがありませんか。そのような時によく使われる表現もこういう機会に練習しましょう。その例としては、「ええと」や「あのう」などがあります。このような表現は、言葉がすぐに見つからないときや忘れてしまったときに話がまだ続いていることを示し、思い出すための時間を作ることもできるので、便利です。また、「ええと」「あのう」は、話し始めるときに聞き手の注意を集める役割もします。これらも談話標識の一つであり、初級から身に付けさせたいものです。モデルのスピーチを聞かせるときにこれらの標識も入っているとよりいいですね。

談話標識を意識して使うことで、スピーチは、ぐっとわかりやすく、

話し言葉らしい自然なスピーチになります。ぜひ試してみてください。

参考文献

国際交流基金関西国際センター『初級からの日本語スピーチ』

凡人社



小玉安恵、阿部洋子（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんからのアイディア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。